



7月25日発売
 定価: 本体2,500円 + 税
 B5横 / 200ページ
 ISBN978-4-09-388715-1

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09388715>

かつて、北の鉄人と呼ばれラグビー日本一に7年連続で輝いた新日鉄釜石ラグビー部。そのラグビー部のホームタウン・岩手県釜石市がラグビーの聖地のひとつにあげられるのは、地域あげてのラグビータウンであるからだ。しかしこの地も東日本震災によって壊滅的な被害を受けた。その被害から立ち上がってきた象徴として、この7月に完成する「釜石鷲住居復興スタジアム」がある。9月から開幕するラグビーワールドカップの試合会場としても使用されるこのスタジアムが持つ意味を後世にも残していきたい、そんな地元の方々の思いも掲載し、美しい写真と、復興に関わった人々の証言も含め一冊にまとめる。たんなるスタジアム紹介本ではなく、ラグビーを愛する人たち、自分の故郷を愛する人たち、そして震災を風化させずに心に刻んで生きていきたい人たちの思いも詰め込んだ。スタジアムに訪れた世界中の方々にこの思いをお伝えしたく、日英のバイリンガルでお届けします。

釜石鷲住居復興スタジアム

復興とラグビーの象徴、釜石スタジアム



7月26日発売
 定価: 本体1,400円 + 税
 四六判 / 256ページ
 ISBN978-4-09-386545-6

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09386545>

一目惚れした清香に誘われて、初めて日本舞踊の発表会を見た大学生の駿介は、清香とともに舞台上に立つ吉樹の踊りから目が離せなくなってしまう。駿介は、二人がいる日舞教室に通うことを決意する。下心たっぷりの稽古通いが始まるが、容赦なく欠点を指摘する吉樹とはソリが合わず、喧嘩ばかり。努力の甲斐があつて上達してきた駿介は、吉樹と「二人狸々」を踊ることを提案するのだが……。駿介は吉樹と上手く踊れるのか！そして、清香との恋の行方は？芸事には縁のなかつた男子が飛び込んだ敵しくも魅力的な日舞の世界。日舞の名取でもある著者がリアルに描く、恋と友情の日舞男子小説！

いのち短し、踊れよ男子

安倍雄太郎・著

日舞に魅了された男子学生の恋と友情！

◆安倍雄太郎(あべ・ゆうたろう)

1991年生まれ、東京都出身。第18回小学館文庫小説賞を受賞した「君がいない町が白く染まる」でデビュー。著書は他に「僕の耳に響く君の小説(うた)」がある。



7月30日発売
 定価: 本体2,500円 + 税
 四六判 / 226ページ
 ISBN978-4-09-388709-0

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09388709>

緻密な手作業による編み目の細かさや形の美しさ、フォーマルな場でも認められ有名セレブが愛用、母から娘へと受け継がれるストーリー性など、様々な面からその魅力を紹介します。著者・八代江津子がアラン・リード氏に弟子入りするまでに5年の歳月を要した経緯や、その後は門外不出のバスケット製作技術を日本で広げてゆくなど、彼女自身のストーリーも描かれます。ナンタケット島は17、18世紀にかけて捕鯨で栄えた北米の島。その島の歴史や文化まで、ナンタケットバスケットの価値を知るには欠かせないことがらを余すところなく伝えます。ニューイングランド・ナンタケットバスケット協会、日本ナンタケットバスケット協会が公認する、世界初となるナンタケットバスケットの公式伝書。こだわりの豪華書籍。

かご伝 ナンタケットバスケット

八代江津子・著

世界初。ナンタケットバスケットの公式伝書

◆八代江津子(やしろ・えつこ)

New England Nantucket Basket Association代表、日本ポストン商業会会長。アメリカ、ナンタケット島のバスケット作家の第一人者、アラン・リードに師事し認められる。日本に初めてナンタケットバスケットの製作技術を紹介し、その技術と伝統を伝えている。ポストン近郊在住。



7月30日発売
定価：本体1,600円＋税
四六判／192ページ
ISBN978-4-09-389784-6

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09389784>

◆井上和彦(いのうえ・かずひこ)

ジャーナリスト。1963(昭和38)年、滋賀県生まれ。法政大学卒。専門は軍事・安全保障・外交問題・近現代史。各種バラエティー番組やニュース番組のコメンテーターも務める。『日本が戦ってくれて感謝しています』(産経新聞出版)、『撃墜王は生きている!』(小学館文庫)など著書多数。

世界は「親日」で溢れていた！
親日を巡る旅
世界で見つけた「日本よ、ありがとう」
井上和彦・著

世界各地を訪れ、現地の人々と交流した筆者が見たのは、日本人が想像もしない各国の親日ぶりだった。一部の国の「反日」ばかりがクローズアップされるなか、その他の多くの国々では、日本の過去の貢献や功績をいまでも語り継いでいたのだ。親日の背景には、そうした先人たちが流した汗、払った犠牲があった。日本人が忘れてしまった歴史の真実に光をあてる。

- ◎ミャンマーが忘れない独立支援の恩
- ◎カンボジアの紙幣に描かれた日の丸
- ◎ガダルカナルで日本兵を弔う人々
- ◎ポーランドで語り継がれる孤児救出
- ◎フィンランドが熱狂した日露戦争勝利など、12か国の親日とその背景に迫る。



7月25日発売
定価：本体1,200円＋税
菊24取／96ページ
ISBN978-4-09-682301-9

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09682301>

KISS!
小原玲・著

見る人を幸せな気持ちにする動物は、丸くて、もふもふして、人間の都合などおかまいなしに、仲間同士でキスしたりハグしたり甘え合ったり。そんな野生動物の姿を28年間撮影しつづけた著者による自選傑作写真集。

え、野生の動物たちがキスしてる!?



7月25日発売
定価：本体1,400円＋税
四六判／160ページ
ISBN978-4-09-310897-3

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09310897>

買う幸福
地曳いく子・著

節約、デフレ……。おしゃれの買い物に罪悪感がありませんか？ でも、あれこれもつのはナンセンス！ 地曳発、冷蔵庫理論で整理。ひとつ買えば3つ捨てられます。おしゃれがうまくいくと幸せな人生が待っている！

これからはものを減らすために買い物しよう



7月31日発売
定価：本体2,000円＋税
A4変／40ページ
ISBN978-4-09-726849-9

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09726849>

写真科学絵本ひとすじの光
佐藤勝昭・監

影も形も、匂いもない「光」。いろんな見え方をする「光」は何でできているのでしょうか？ この絵本は、「光」が、どのようなものなのか、また、どのように生まれるのかを、たくさんの実験を元に、写真で説明していきます。驚きと感嘆にあふれた一冊。累計860万部のベストセラー絵本「ミッケ！」シリーズの作者が長年温めていた作品です。

光が何でできているのか、写真で説明します



7月30日発売
定価：本体1,300円＋税
A5判／128ページ
ISBN978-4-09-310896-6

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09310896>

顔もお腹もV字アップ!
吉丸美枝子・著

吉丸式V字アップメソッドなら、フェイスラインはすっきり小顔に、ボテッとしたお腹はキュッと細く。自分になりたい顔や体のイメージを持って、まずは3日間！ この思考法と顔&体メソッドを身につければ、誰でも「なりたいたい私」に！

驚異の70歳が教える痩せて美しくなる方法

小学館新書

韓国を蝕む儒教の怨念
 反日は永久に終わらない
 呉善花・著

「不可逆的に最終合意」したはずの慰安婦問題をひっくり返したかと思えば、韓国の最高裁は、すでに日韓基本条約で解決済みの徴用工裁判で日本企業に対し、賠償判決を出す。一方で、文在寅大統領は中国、北朝鮮に擦り寄り、反日を加速させている。日本と韓国の関係は戦後最悪の状態にある。普通の日本人の感覚からすれば、まったく理解できない。いったいなぜなのか。ヒントは、反日主義にしなければならなかった韓国の歴史にある。それが現代にまで続き、自壊の道を辿っているのだ。韓国出身の著者がその謎を史実に基づき解き明かす。



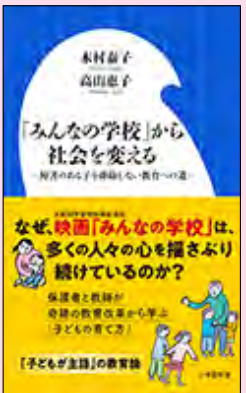
8月1日発売
 定価：本体840円＋税
 新書判／272ページ
 ISBN978-4-09-825351-7

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09825351>

小学館新書

「みんなの学校」から社会を変える
 障害のある子を排除しない教育への道
 木村泰子／高山恵子・著

大阪の公立小学校を舞台とした大ヒットドキュメンタリー映画「みんなの学校」は、2015年の封切り以後ロングランを重ね、今もなお自主上映が続き、多くの感動を呼び続けています。どうしたらあんな素晴らしい学校ができるのか？ 障害の有無にかかわらず、すべての子どもが幸せになるために大人は何をすべきなのか？ 「みんなの学校」づくりの立役者木村泰子氏と特別支援教育の改革者高山恵子氏が、新時代の教育のあり方について徹底的に語り合い、「みんなの学校」のつくり方を具体的に解き明かしていきます。



8月1日発売
 定価：本体800円＋税
 新書判／208ページ
 ISBN978-4-09-825352-4

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09825352>

小学館新書

ヒトラーの正体
 舛添要一・著

アドルフ・ヒトラー。20世紀最恐と言っている暴君ですが、一方で彼が当時最も民主的な国家といわれた「ワイマル共和国」から生まれた事実を忘れてはいけません。なぜ人びとは、この男を支持したのか。悲劇は、止めることができなかつたのか。戦争中、ナチスに処刑されたユダヤ人はおよそ600万人と推計されています。現代に生きる我々は、ホロコーストを知っており、どんなことがあってもこの男を許してはならない。ただ、歴史には必ず教訓があります。ヒトラーを正しく恐れるための入門書。



8月1日発売
 定価：本体840円＋税
 新書判／272ページ
 ISBN978-4-09-825353-1

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09825353>

◆呉善花(おそんふあ)
 1956年、韓国 済州島生まれ。評論家、拓殖大学国際学部教授。83年に来日。大東文化大学の留学生となる。その後、東京外国語大学大学院修士課程(北米地域研究)を終了。在学中に執筆活動を始め、90年、「スカートの風」(三交社)がベストセラーとなった。韓国での学校教育によって、かつては反日主義に傾倒していたが、来日後に様々な意図を経て知日派になった。98年に日本に帰化。「なぜ「反日韓国」に未来はないのか」など著書多数。

◆木村泰子(きむら・やすこ)
 大阪市立大空小学校の初代校長。障害の有無にかかわらず、「全」の子どもたちの学習権を保障する学校づくりに尽力し、具現化した。著書「みんなの学校」が教えてくれたこと(小学館)など。
 ◆高山恵子(たかやまけいこ)
 NPO法人えんじょくらぶ代表。臨床心理士。ADHDなど高機能発達障害のある人のカウンセリングと教育を中心に活動。「特性とともに幸せに生きる」(若崎学術出版社)など、著書多数。

◆舛添要一(ますぞえ・よういち)
 1948年、福岡県北九州市生まれ。1971年、東京大学法学部政治学科卒業。パリ(フランス)、ジュネーブ(スイス)、ミーンヘン(ドイツ)でヨーロッパ外交史を研究。東京大学教養学部政治学助教授を経て政界へ。2001年、参議院議員(自民党)に初当選後、厚生労働大臣(安倍内閣)、福田内閣、麻生内閣、都知事を歴任。著書に「都知事失格」など。

小学館新書

上級国民 / 下級国民
 橋玲・著

みんな社会が「上級／下級」に分断されていることに薄々気づいている――。

平成の労働市場が生み落とした大量の「下級国民」。彼らを待ち受けるのは、共同体からも性愛からも排除されるという、残酷な運命だ。一方でそれらを独占する少数の「上級国民」たち。結果的に、下級国民は「生涯独身」のまま、上級国民は事実上の「夫多妻」を実現しているという。

日本のひきこもり問題もアメリカの白人中流層の崩壊も、根っこにはすべて同じ問題がある。ベストセラー『言ってはいけない』の著者が、世界レベルで現実に進行する分断の正体をあぶり出す。

◆橋玲(たちはな・あきら) 1969年生まれ。作家。国際金融小説『マネーロンダリング』『タックスヘイヴン』などのほか、「お金持ちになれる黄金の羽根の拾い方」「幸福の『資本論』など金融・人生設計に関する著作も多数。『言ってはいけない』残酷すぎる真実で2017年新書大賞受賞。近著「もつ」と言ってはいけない「働き方20vs40」「人生は攻略すべき」など。



8月1日発売
 定価: 本体820円 + 税
 新書判 / 240ページ
 ISBN978-4-09-825354-8

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09825354>

いつだって、僕らは本と生きてきた。
 [P+D BOOKS] 今月のラインナップ

アールズボーイ 佐伯一麦・著

性悪な英語教師をブン殴って県下有数の名門高を中退した17歳の斎木鮮は、昔の恋人・幹とアパートで暮らし始める。幹もまた父親の分らない子を産んだばかりで女子高を退学していた。第4回三島由紀夫賞受賞作品。

定価: 本体500円 + 税 B6判 / 192ページ
 ISBN978-4-09-362372-1
<https://www.shogakukan.co.jp/books/09362372>

別れる理由2 小島信夫・著

前田永造の妻・京子が前夫との間に設けた長男・康彦は、母のいない寂しさから家出を繰り返す。康彦の学校へと出向いた永造は、担任の女教師に名前を「作家・前田永造」と呼び捨てにされ不快になりつつも興味を抱く。

定価: 本体650円 + 税 B6判 / 464ページ
 ISBN978-4-09-362373-8
<https://www.shogakukan.co.jp/books/09362373>

8月8日発売・配信(ペーパーバックとデジタルで同時、同価格)
<https://dbooks.jp>



小学館文庫

上流階級 富久丸百貨店外商部2
 高殿円・著

高卒からのたたき上げ、富久丸百貨店外商部の鮫島静緒(38)は、今日も個性豊かなセレブのお客様相手に奔走している。登校拒否ぎみの孫のためお金に糸目をつけない祖母。暴力団幹部の子を妊娠し、逃亡を望む愛人……。外商部の本格的な立て直しプロジェクトが始まり、男社会の古い社内体質が静緒を悩ませる。そこに同居人研家の元彼まで登場!? そのうえ研家をゲイと知る母親が、バツイチ独身の静緒に息子との再婚を勧めてきて!?

竹内結子主演でドラマ化された話題作続編。神戸在住の著者による大ヒット小説、待望の文庫化!



◆高殿円(たかどの・まどか) 兵庫県生まれ。2000年にマガダミリア三つの星で第4回角川学園小説大賞奨励賞を受賞しデビュー。ほか「トッカン」特別国税徴収官「政略結婚」など著書多数

8月6日発売
 定価: 本体810円 + 税
 文庫 / 416ページ
 ISBN978-4-09-406662-3

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09406662>

小学館文庫

鴨川食堂まんぷく
 柏井壽・著



◆柏井壽(かしわい・ひさし)
 京都生まれの京都育ち。テレビ番組や雑誌の京都特集で監修をつとめる。著書に「極みの京都」日本百名宿」など多数。小説作品に「鴨川食堂」「鴨川食堂はんなり」「海近旅館」などがある。

8月6日発売
 定価：本体630円＋税
 文庫／320ページ
 ISBN978-4-09-406675-3

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09406675>

亡き妻・掬子に見守られながら、娘のこいしと食堂を営む鴨川流のもとには、多くの迷い人が訪れる。彼らが探しているのは、忘れられない思い出の味。心の奥にしまっていた後悔を、再現された料理とおもてなしで解きほぐします。幼馴染が成人式に作ってくれたたらこスバゲティ、罪の意識と引き離せない焼きおにぎり、亡き妻のじやがたま、学校で問題を起こす息子が愛する祖母のかやくご飯、列車の中で泣きながら食べたカツ弁、家族を捨てた父が最後に作ったお好み焼き……。看板のない食堂の扉を、そっと開けてみてください。京都発！ 美味しいミス

テリ―第六弾。

小学館文庫

カール・エビス教授のあやかし京都見聞録
 柏井壽・著



◆柏井壽(かしわい・ひさし)
 京都生まれの京都育ち。テレビ番組や雑誌の京都特集で監修をつとめる。著書に「極みの京都」日本百名宿」など多数。小説作品に「鴨川食堂」「鴨川食堂はんなり」「海近旅館」などがある。

8月6日発売
 定価：本体630円＋税
 文庫／288ページ
 ISBN978-4-09-406676-0

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09406676>

英国人ミステリー作家のカール・エビスは京都の京洛大学に招かれ、日本文学の教鞭を執っている。その傍ら、次回作執筆の取材と称して、助手を務める九条葵と京都の街を練り歩く毎日だ。日本通だと思っていたカールだが、京都では驚いてばかりいる。あとをつけていた女性が突然消えてしまった。あ、あの世とこの世の境目といわれる場所では、霊に憑かれてしまった。かと思えば、なんでも癒すお地蔵様を洗うと、霊が消えてふっと肩が軽くなる。この世には、目に見えないものや理屈の通らないことがある――。ベストセラー「鴨川食堂」の著者が贈る、京都発新シリーズ！

京都発新シリーズ！

小学館文庫

君はレフティ
 額賀澤・著



◆額賀澤(ぬかが・みお)
 1990年、茨城県生まれ。『トリコ』で第16回小学館文庫小説賞、「屋上のウインドノーツ」で第22回松本清張賞を受賞。デビュー。『マスキメシ』は青少年読書感想文全国コンクール課題図書に。著書に「さよならクリムソーダ」「ウスタマ」など。

8月6日発売
 定価：本体810円＋税
 文庫／336ページ
 ISBN978-4-09-406677-7

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09406677>

交通事故で全ての記憶を失った高校生・古谷野真樹は、学校生活に復帰し日常に馴染み始めていた。そんななか「7.6」と書かれた落書き事件が発生する。記憶喪失による違和感が拭えずにいた真樹は、この事件に何とも言いえないひっかかりを覚え、調査を進める。かつての自分探しに悩みながらも、親友・生駒桂佑や春日まどかと共に解明に挑む真樹。

次第に明らかになっていく、かつての自分と親友の秘密。忘れてしまった「真実」に辿り着いた真樹が下した決断とは。息をのむラスト。青春小説の旗手が挑む、学園ミステリー×200%ピュアな恋愛小説。待望の文庫化。

小学館文庫

ごめんなさいといえる
 三浦綾子・著



◆三浦綾子(みづら・あやこ)
 1922～1999年。北海道旭川市生まれ。十三年間の療養生活中に洗礼を受け、59年に三浦光世と結婚。「氷点」「塩狩峠」「泥流地帯」「母」「銃口」など著書多数。

8月6日発売
 定価：本体750円＋税
 文庫／256ページ
 ISBN978-4-09-406678-4

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09406678>

名作『氷点』誕生五十年を記念して編まれたエッセイ集を文庫化。第一章では、『氷点』執筆までの知られざる逸話、反響などを紹介。また、夫光世の当時の日記を初公開。第二章では、『泥流地帯』『銃口』などの作品や忘れ得ぬ人々への思い、小説執筆以前に詠んでいた短歌についての文章などを収めている。「私はね、人間って『ごめんなさい』と神様にも人にもいえる。自分が許してもらわなければならない存在だと知ることが大切だと思うの」。誰もが持つ弱さ、知らないうちに犯してしまっている罪。許し、許されることの意味をそっと教えてくれる。

小学館文庫

ひやくねん
百年の快樂
 工藤美代子・著



◆工藤美代子(とどうみよこ)
 1950年生まれ。91年「工藤写真館の昭和で講談社ノンフィクション賞を受賞。近著に『凡人の怪談』不思議がひょんと現れて『快樂』路恋は声になるまで』『美智子さま』その動き声などがある。

8月6日発売
 定価：本体750円＋税
 文庫／288ページ
 ISBN978-4-09-406679-1

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09406679>

小学館文庫

しんせんぐみさけ
新選組最後の勇士たち
 山本音也・著



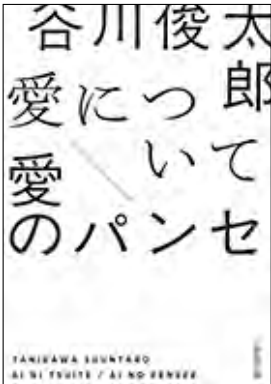
◆山本音也(やまもとおとや)
 1982年「夏会」で中央公論新人賞受賞。1983年「返風まつり」で芥川賞候補。2002年「ひと化けもんわれも化けもん」で松本清張賞受賞。本作で舟橋聖一文学賞受賞。

8月6日発売
 定価：本体840円＋税
 文庫／384ページ
 ISBN978-4-09-406680-7

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09406680>

小学館文庫

あい
愛について／愛のパンセ
 谷川俊太郎・著



◆谷川俊太郎(たにかわしゅんたろう)
 1931年生まれ。52年、処女詩集『二十億光年の孤独』を刊行。以降『日々の地図』『世間知ラス』『トロム』『カラー』『ユニ』『詩集多数』エッセイ、絵本や童話、翻訳も多数。

8月6日発売
 定価：本体900円＋税
 文庫／352ページ
 ISBN978-4-09-406681-4

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09406681>

小学館文庫(キャラクター)

ヴァンパイア探偵
ヴァンパイア探偵
 禁断の運命の血
 喜多喜久・著／THORES 柴本・イラスト

古い屋敷に住むヴァンパイア。こと天羽静也は、幼なじみの桃田遊馬が持ち込む事件の血液分析を請け負っている。イケメン刑事&ミステリアスな血液研究者コンビが血を手がかりに難事件に挑むブラディ・ミステリー。

定価：本体640円＋税 304ページ
 ISBN978-4-09-406672-2
<https://www.shogakukan.co.jp/books/09406672>

返却はお早めに
返却はお早めに
 あやかしの文庫へようこそ
 椎名蓮月・著／潤宮るか・イラスト

兄の命日を機にあやかしが見えるようになった、かなで。あやかしの助言を受け、解決法が書かれた本を求めて謎の図書室「ひいらぎ文庫」を訪れるが、目的の本は延滞中?! あやかし×本がもたらす心に響く物語。

定価：本体600円＋税 256ページ
 ISBN978-4-09-406673-9
<https://www.shogakukan.co.jp/books/09406673>

8月6日発売 文庫判

『快樂』『炎情』などで更年期女性の生き方をルポしたノンフィクション作家・工藤美代子さんが、人生百年時代に進化を続ける私たちの実相を綴った話題作の文庫化(『後妻白書』に大幅加筆し改題)。誰もがいつまでも美しく、欲望も満たせる時代は到来したのだろうか。熟年の出逢いと結婚のドラマ。美容整形の最前線。年齢を重ねたゆえに襲いかかる性交痛。さらにパートナーや親の介護から遺産相続などの経済的な問題まで……。後半生を迎えた女性の赤裸々な告白から鋭く現実を抉り出す。この本は、あなたが新しい一歩を踏み出す勇気を与えてくれる。

新選組最後の隊長・相馬主計と元隊士・安富才助。土方歳三の最期を看取ったふたりは、戦いでそれぞれ腕と指を失ったものの、明治の世へと生き残った。流刑での島暮らしのなか、思わぬ邂逅と確執を経たふたりの人生は「御一新」の荒波に翻弄されていく。痛切のラストまで一気読み必至! 松本清張賞作家が人の生き様、心の痛みを精緻に描ききった傑作時代小説!! 第10回舟橋聖一文学賞受賞作。

二十代半ばの若き詩人の、(愛という名を冠した)二冊を合本にしたオリジナル文庫。『愛について』は谷川俊太郎が24歳の時に刊行された第三詩集。へいつまでも／そんなにいつまでも／むすばれているのだどこまでも／そんなにどこまでもむすばれているのだ／弱いもののために／愛し合いながらもたちきられているもの／ひとりで生きているもののために……。もう一冊は26歳の年に発表された初のエッセイ集『愛のパンセ』。18篇のエッセイの他、詩や歌やモノローグ劇も収録。解説は江國香織氏。